

みなさんは『モンテッソーリ教育』と聞くと、どういうイメージをお持ちですか？

最近では「将棋の藤井総太さんが通っていた幼稚園がモンテッソーリ園だった」ことなどで興味を持たれた方も多いかも知れません。

モンテッソーリ教育を受けた有名人をあげてみると、ビル・ゲイツ（マイクロソフト創業者）、マーク・ザッカーバーグ（Facebook 創業者）、トーマス・エジソン、アンネ・フランク、ヘレン・ケラー、オバマ前米国大統領等々、錚々たる人たちが並びます。

『モンテッソーリ教育』って何なんでしょう？ ヒントになる1冊の本があります。～『ママ、ひとりですの手伝ってね』（相良敦子 著）～。私が初めて読んだモンテッソーリ教育の本です。

良い親でありたいと願わない親はいないでしょう。

「子どものために！」と思うからこそ、日々、一生懸命、育児に取り組んでいるのです。

でも、その“一生懸命の方向”、本当にそれでいいのでしょうか？

この本の冒頭には、「自ら良く生きようとする生命を助けるのがモンテッソーリの教育」とあります。子どもたちは誰だって、本当は「良く生きたい」と思っています。

勉強だって、運動だって、できる自分でいたいし、お父さん、お母さんに喜ばれる自分でいたいと願っているのです、

それなのに、お父さん・お母さんからは「ああしろ、こうしろ」と叱られてばかり。。

これは大変もったいないことです。では、どうしたらいいのでしょうか？

まず、親は「子どものことは私が一番わかっている。私がこの子にあらゆることを教え、導かないといけない。」という考えから、「子ども自身の中に良く生きるための必要な力は備わっている。親は、子どもが自分自身の力を最大限活かし、成長していくためのサポートをする。」という考え方に変わらなければなりません。

親として乳幼児期の子どもにすべきことは、「子どもは、今、何を感じ、何をやろうとしているか」を理解して、そのために必要なサポートをすることなのです。

子ども自身が持っている「生きていくための力」を信じ、それを最大発揮させるために、自分はどんなサポートができるのか？って考えながらお子さんと向き合うと、育児に対する見方が大きく変わってくるかもしれません。

子育て中は色々落ち込むことも多くあります。これが永遠に続くように見えてしまいます。

寒い冬も次には必ず春がくる。明けない夜はありません。太陽は東の空からあがり、西の空にしずんで

いく。

さて、この時期子どもたちは進学、進級にむけて受験などこれまで積み上げてきたものを試す時期ですね。

人間は本来、知らないことを学んだり、考えを深めたりすることに喜びを感じるものです。

それが、「勉強はきらい！テストが悪い点数なので、お母さんに叱られる。」と言う子のなんと多いことか・・・。

「どうしてこんなこともわからないの！」とつい言ってしまおう。

叱られるのが怖いから勉強するというのでは、たぶん良い点数をとることはできないとわたしは思っています。

わからないところはどこなのか、わかりやすく教えるにはどんな工夫をすればいいのか。

子どもを怒っている場合ではありません。

冷静に考えればそんなこと言われなくても分かるでしょう。。

自分の子供だから、つい言いすぎたり感情的になってしまうものです。

わたしには間もなく母になる娘が一人います。娘はピアノが弾けません。幼い時にわたしがガンガン言い過ぎてしまったから・・・

皆様どうぞ他山の石となさってください。今は悩む時期であっても、誰にも必ず太陽が昇ります。